

研究シーズ 目次

■教育・文化・社会

ICTを活用した出版と図書館の未来を考える（湯浅 俊彦）	1
学習・記憶、情動知能の研究（豊田 弘司）	2
デジタルの世界の「手ざわり」を表現する（林 勇気）	3
変わりゆく地方自治体経営と地域活性化政策についての研究（藤原 直樹）	4
「食」による地域振興の研究（村上 喜郁）	5
イタリアの都市政策に学ぶ（井上 典子）	6
AIとデータで“働く・学ぶ”を見える化する（齊藤 絵理子）	7
「国際英語」教育の理論と実践（日野 信行）	8
英語学習・異文化理解の支援（アリザデ メラサ）	9
日本語文章を上手に書くコツを教えます（増地 ひとみ）	10
ロボット・プログラミング教育が未来を拓く（福田 哲也）	11

※所属学部、職位、氏名五十音順に掲載

ICTを活用した出版と図書館の未来を考える

研究内容

●電子出版および電子図書館の研究

- ・デジタルネットワーク社会における出版と図書館の未来を研究している。
- ・研究実績として、「教育へのICTの活用としてデジタル絵本の研究」、「全国初となる追手門学院の小中高大において共通の電子図書館サービス『LibrariE』の導入」、「大阪市で利用している社会科副読本の『わたしたちの大阪』を外部の情報資源と繋いでデジタルアーカイブ化し、追手門学院小学校においてデジタル教科書やデジタルアーカイブを活用しての模擬授業の実施」など数多くある。



新規性・優位性

- ▶デジタル環境下の出版ビジネスと図書館に関する研究を長年進めてきた第一人者であり、本学に電子図書館サービス「LibrariE」をいち早く導入し、図書情報をどこにいても活用できる環境に整備した取組が2021年5月5日付の『日本経済新聞』朝刊に大きく取り上げられた。

応用・活用例

<電子出版および電子図書館の未来の研究>

- イノベーションを起こす図書館の研究（図書館のあり方の研究）
- 電子書籍の新たな可能性の研究（社会変革、新たな文化の創出）



湯浅 俊彦

教授

国際教養学部
国際日本学科

所属学会：日本デジタル・アーカイブ学会
日本マス・コミュニケーション学会
日本図書館研究会、日本図書館情報学会
日本出版学会

委員会：神戸市立図書館協議会 会長、
日本ペンクラブ言論表現委員会 副委員長
日本図書館協会 出版流通委員会 委員ほか

学習・記憶、情動知能の研究

研究内容

●学習・記憶、情動知能の研究

- ・どのようにすれば児童・生徒が確実に知識を定着させることができるかについて研究している。また、人間の感情による影響についても研究している。
- ・研究実績として、「教育心理学、認知心理学および記憶の心理学の研究に関する多数の著書」や「偶発記憶や意図記憶に関する研究、情動知能に関する研究、居場所と孤独感等の情動に関する研究など、多様な研究テーマに関する200件を超える論文の発表」、「子どもの問題行動と自尊感情や適応感の育成や教育心理をテーマとした講演」など多くの実績がある。



新規性・優位性

- ▶教育活動においては、どのような情報提示の仕方が最も効果的であるかの問題の解明を目指しており、研究活動においては、研究デザインをシンプル化することおよびデータをできる限り多くの視点から分析して新しい発見をえる可能性を追求することを大切にしている。

応用・活用例

<学習・記憶、情動知能の研究、地域貢献活動>

- 中小企業経営者に対する環境心理学、社会心理学のセミナー（リーダー論などの講義）の開催
- 青少年の居場所や学習活動に関するセミナーの開催



豊田 弘司

教授

心理学部 心理学科
心理学研究科

所属学会：日本教育心理学会
日本心理学会
日本発達心理学会
日本認知心理学会
関西心理学会
APA

委員等：日本教育心理学会 理事
関西心理学会 顧問



産学官連携オフィス

✉ sangakukan@otemon.ac.jp

デジタルの世界の「手ざわり」を表現する

研究内容

●映像の制作と研究

- ・デジタル写真やデジタル映像の社会での需要と消費のあり方を模索する映像制作と研究を行っている。

映像制作は、膨大な量のデジタル映像や写真をコンピュータに取り込み、1コマずつ切り貼りして緻密に合成する作業を手作業で行うことにより、大画面画像（映像インスタレーション）を制作している。

- ・制作した作品は各地の美術館や個展に出品しており最新の作品は大阪伊丹空港に展示している。



新規性・優位性

- ▶本研究で制作された映像は、膨大な量のデジタル写真をコンピュータに取り込み、1コマずつ切り貼りして綿密に合成した独自のアニメーションであり、全てこの世界にある写真からできているにもかかわらず、一見CGの映像作品にも見える作品である。

応用・活用例

<映像の制作・研究による社会貢献>

- 音楽のライブとともにプラネタリウムで360度の映像作品展示
- 子供向けの映像を作るワークショップ活動
- 同世代のアーティストとのコラボレーション



林 勇気

教授

社会学部 社会学科

所属学会 : 映像学会

委員等 : 茨木市映像芸術祭 審査員
フクイ夢アート 審査員
宝塚市民文化芸術振興会議 構成員
映像芸術祭MOVING 実行委員

受賞学術賞 : 優秀賞、PAT in Kyoto
京都版画トリエンナーレ (映像作品「すべての終わりに」)

産学官連携オフィス

✉ sangakukan@otemon.ac.jp

変わりゆく地方自治体経営と地域活性化政策についての研究

研究内容

●自治体の政策および行政・地域の経営手法の研究

- ・持続可能な地域の発展を目指す自治体の政策や行政・地域の経営手法についての研究、即ち、地域政策、自治体経営、地域国際戦略をキーワードに研究を進めており、自治体との共同プロジェクトも意欲的に行っている。
- ・具体的には、「地域活性化の事例（官民連携による観光振興。移住支援、子供・若者育成支援、特産品の新たな価値創造など）にみる自治体の攻めの戦略の研究」、「鹿児島県徳之島伊仙町のまちづくり支援として、学生による町の魅力の現地調査と魅力紹介動画の配信活動」などがある。



新規性・優位性

- ▶政令指定都市の自治体における様々な業務の実務経験に基づき、地域政策や行政・地域の経営手法の研究を行っている。2018年には著書『グローバル化時代の地方自治体産業政策』が「国際公共経済学会 学会賞」を受賞し、2019年には「行政に関するアジア・太平洋地域機関研究大会2019」にて最優秀賞を受賞している。

応用・活用例

＜自治体の政策および行政・地域の経営手法の研究＞

- ゼミ学生を指導しての新たな地域活性化プロジェクトへの参画
- 自治体産業振興計画、上下水道等のインフラ整備・運営計画への助言・相談



藤原 直樹

教授

地域創造学部
地域創造学科
経営・経済研究科

所属学会：Regional Studies Association、
Eastern Regional Organization for Public Administration
日本計画行政学会、地方行政実務学会
国際公共経済学会ほか

委員等：地方行政実務学会 理事（研究支援委員）
日本計画行政学会関西支部 理事
各種審議会・有識者会議 委員（内閣府、大阪府、大阪市、
茨木市、門真市、宇治市等）

産学官連携オフィス

✉ sangakukan@otemon.ac.jp

「食」による地域振興の研究

研究内容

●フードツーリズムとガストロノミー概念を活用した地域振興の研究

- ・フードツーリズムについて経営学の視点から研究しており、最近では2022年11月に日本フードツーリズム学会と共催して「地域の食資源としてのコナモンの魅力」をテーマにした講演会を開催している。
- ・また、ガストロノミー（美味学・美味術）概念を活用した食による地域振興を中心に研究を進め、PBL教育として学生とともに商品開発やイベント開発の実践も行っている。具体的実績には、「茨木市見山地区（見山の郷）との共同による商品開発」、「大阪府中央卸売市場との丼物の共同開発」、「京阪百貨店主催の『SDGs 食育フェスタ』への出展」などがある。



新規性・優位性

- ▶フードツーリズムやガストロノミーを活用した地域振興の研究を行うとともに、ゼミ生を指導して学外の学生ビジネスプランコンテストにも参加し、関西ベンチャー学会賞（優勝）やCVG中小企業基盤整備機構 近畿本部長賞などを受賞する学生を輩出するなど「研究・教育・社会連携」の三位一体の活動を展開している。

応用・活用例

<「食」による地域振興：商品開発・イベント開発など>

- 地域のスタートアップ事業支援
- 地域の中小企業の市場開拓支援
- 地域食資源の研究

村上 喜郁

教授

経営学部 経営学科
経営・経済研究科

所属学会：日本フードツーリズム学会
工業経営研究学会、日本観光研究学会
日本経営学会

委員等：茨木市商工会議所評議会 評議員
豊中市都市農業振興基本計画審議会 会長

イタリアの都市政策に学ぶ

研究内容

●イタリアの都市政策研究に基づく景観保全と地域政策の研究

・生物多様性保護や気候温暖化対策などの今日的な都市問題に直面する、イタリアのミラノ、ボローニャ等を中核とした大都市圏都市政策を研究対象としている。

・日本ではゼミ生とともに、特に小規模都市における都市と農村の新たな関係構築に関する調査を行っている。

ゼミ生による実績として、滋賀県日野町の景観調査があり、地域を訪問して空き家や空き地等の現状を調査し、その保全や活用の在り方について検討するとともに、地域内で住民の方々との意見交換会や成果報告会を開催している。



新規性・優位性

▶文化庁文化財部記念物課文化財調査官として、文化的景観保護制度における制度設計に関わった。現在は、ボローニャ大学研究者との共同研究を進め、ボローニャと金沢という二つの歴史都市が抱える課題について比較検討するなど、イタリア諸都市の都市保全策に詳しい。

応用・活用例

<地域政策、景観保全>

- 住民参加による景観保全とまちづくり
- 都市と農村の連携、新しい都市－農村関係の構築



井上 典子

教授

地域創造学部
地域創造学科
現代社会文化研究科
現代社会学専攻

所属学会：地域社会学会、日本地域政策学会、地中海学会
日本イコモス国内委員会、日本計画行政学会
日本都市計画学会

委員等：日本地域政策学会 第11期研究推進委員
The European Journal of Creative
Practices in Cities and Landscapes
(CPCL) a member of the Scientific Committee

産学官連携オフィス

✉ sangakukan@otemon.ac.jp

AIとデータで“働く・学ぶ”を見える化する

研究内容

●人の働き方と学びを支える数理的・意思決定支援に関する研究

- ・人が「どのように働くか」「どうすればもっとよい職場・学びの場になるか」——そうしたテーマに対して、データと数理の力で答えを探す研究をしている。大学・企業・自治体などが抱える、「人が育たない」「すぐ辞めてしまう」「うまく組織がまわらない」といった課題に対し、アンケートや自由記述などの定量的アプローチに基づいて構造化を行い、改善に向けたシミュレーションや最適化モデルを設計し、現場で役立つ分析と提案を行う。



How transportation convenience to campus and activity opportunities affect university preference



(Top) WASEDA EDGE-NEXT (2017) Beyond 2020 NEXT PROJECT, <https://www.waseda.jp/top/news/53561>
 (Middle) Waseda University Graduate School of Political Science (2017) Active Learning among Students and Research Outreach in Robotics Research, <https://www.waseda.jp/top/news/52191>
 (Bottom) Eriko, Saito, Kotomichi, Matsuno, Takahiro, Ohno (2024) The Influence of Transportation Convenience to Campus and any Activity Opportunities on University Preference: Through a Comparison of Two Extremes in Tokyo, Asia Pacific Industrial Engineering Management Systems Conference

新規性・優位性

- ▶教育・雇用・組織づくりの実務データを活かし、現場で役立つ分析と提案ができる
- ▶統計やAIを使い、人の行動や意思決定をわかりやすく整理・可視化できる
- ▶大学・企業・自治体の実証研究、国際学会や英語論文によるグローバルな発信が可能

応用・活用例

<人の働き方と学びに関する研究>

- 企業：女性活躍推進や若手育成施策の効果測定と改善提案子育て支援と働き方支援の両立バランスモデルの設計
- 教育機関：大学経営における学部統廃合やキャンパス移転に関する最適化モデルの構築授業満足度や学修成果の見える化、学生の定着支援戦略の策定



齊藤 絵理子

教授

共通教育機構

所属学会：日本経営工学会、情報処理学会、経営情報学会
日本経営システム学会、APIEMS・ACMSA等に毎年参加

委員等：早稲田大学価値創造マネジメント研究所研究員
量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所研究員
東京都小金井市企画財政部男女共同参画委員
文部科学省「次世代アントレプレナーシップ育成事業」
任命技術審査委員
JIMA論文誌編集委員、JAMS研究大会実行委員等、多数

「国際英語」教育の理論と実践

研究内容

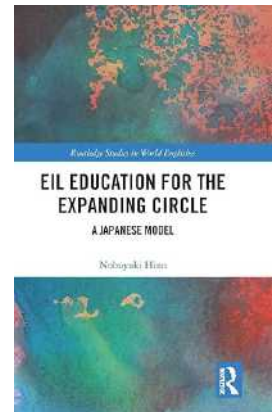
●グローバル言語としての英語教育の理論的研究

- ・ EIL (English as an International Language)、WE (World Englishes)、ELF (English as a Lingua Franca)等の概念と隣接諸科学の知見を統合的に発展させて、英米の枠を超えた「国際英語」の教育理論を構築する研究を行っている。

●非母語話者モデルの英語教育方法論の実践的研究

- ・ 非母語話者の自己表現と非母語話者間のコミュニケーションを主眼とする英語教育の方法論を実践的に研究している。

研究成果は、Routledge, Cambridge University Press, Springer, Wiley, John Benjamins, De Gruyter Mouton, Palgrave Macmillan, Multilingual Matters, Georgetown University Press等の世界的に強い影響力を有する国際学術出版において、著書や論文として発表している。



新規性・優位性

- ▶ 社会のグローバル化とともに、従来の母語話者モデルの英語教育は変革を迫られており、そのための理論的基盤や具体的な教育方法を示すことは今日の世界的な課題である。
- ▶ IAWWE大会、RELC大会、Asia TEFL大会、PAAL大会、LTTC大会、ELLAK大会、TELLSI大会、ICEE大会、QSサミット等の高い権威を有する国際学会において、基調講演・招待講演をつとめている。

応用・活用例

<グローバル化に対応した英語教育のモデルの開発>

- 英語を母語や第二言語としてではなく国際コミュニケーションの手段として用いている国々 (日本を含むいわゆる Expanding Circle) における英語教育のカリキュラム・教材・教授法の開発。



日野 信行

教授

共通教育機構

所属学会：International Association for World Englishes (元理事)
日本「アジア英語」学会 (元会長)
大学英語教育学会

委員等：Editorial Advisory Board, World Englishes (Wiley).
Editorial Board, Intercultural Communication and Language Education series (Springer).
International Advisory Board, Routledge Advances in Teaching English as an International Language series (Routledge).

英語学習・異文化理解の支援

グローバル化が進展する中で、英語を国際的なコミュニケーション手段として習得することが求められており、あわせて多文化に対する理解を深めることも重要である。

研究内容

●VRを活用した英語学習・国際交流支援に関する研究

・英語学習を基盤として、学生の異文化理解を深めることを目的に、学内外でVR技術を活用した国際交流イベントを実施し、学習者の体験や学習効果について研究している。

●VRや対話型AIを活用したバーチャル留学に関する研究

・本研究では、日本と海外の教育機関の学生をつなぐ教育実践を行っている。具体的には、時差の少ないオーストラリアやニュージーランドの大学と国際共同研究を進め、バーチャルツアーや対話型AIを活用することで、学生同士のコミュニケーションを促進する。これにより、言語や文化への関心を高めるだけでなく、語学学習や異文化理解の深化に加えて、イマーシブ技術や生成AIに関する知識の向上も目指している。



<https://youtu.be/w-OE9gbzIQY?si=hjvhLKPCwjeWgZED>

新規性・優位性

▶語学教育におけるVRや対話型AIに関する研究は現時点ではまだ少なく、未来の教育手法を開拓する上で重要な研究分野である。本研究では、先端技術を活用し、質の高い教育体験の提供を目指している。これまでの研究成果は日本学術振興会からも評価され、若手研究課題として2度の採択を受けている（課題番号：22K13756、25K16379）。

応用・活用例

< VRや対話型AIを利用したバーチャル留学に関する研究 >

●バーチャル留学を推進することで、経済的・時間的な制約により海外留学が困難な学生にも国際交流の機会を提供し、その貴重な経験を大学院での学びや将来の職業生活に活かすことができる。



アリサデ メラサ

准教授

共通教育機構

所属学会：全国語学教育学会（JALT）

外国語教育メディア学会（LET）

e-Learning教育学会（WELL）

Australasian Society for Computers in Learning in Tertiary Education（ASCILITE）

委員等：e-Learning教育学会 理事

全国語学教育学会 会計担当者連携窓口

ASCILITE モバイルラーニング（ML）SIG 会員

JALT学会 優秀発表賞

産学官連携オフィス

✉ sangakukan@otemon.ac.jp

日本語文章を上手に書くコツを教えます

研究内容

●日本語の表記の仕方の研究

- ・日本語の書き言葉における漢字・ひらがな・カタカナの使い方を研究している。具体的には、現代日本語におけるカタカナ使用の実態を明らかにするとともに非外来語がカタカナで表記される背景を探究し、主に身近な資料から収集した非外来語のカタカナ表記の実例を提示して実態を示し、それらがなされる要因と、要因同士が関わり合う仕組みと原理を研究している。

●日本語の文章の書き方

- ・論理的でわかりやすい文章をどうすれば書けるのか、初年次生の文章力をどのように向上させるかなどを研究している。



新規性・優位性

- ▶日本語の表記の仕方（日本語の書き言葉における漢字・ひらがな・カタカナの使い方）について日本語文章を作成するうえでの一般的な目安を提示できる。
- ▶早稲田大学ライティングセンターでのチューター経験から、論理的でわかりやすい文章の書き方を企業や自治体などのニーズに応じて教えることができる。

応用・活用例

<日本語でわかりやすく書いて伝えるための研究>

- 「日本語検定」受検対策講座における語彙・言葉の意味の講義
- 「社会人基礎力」養成を目指した日本語授業のデザイン
- 児童を対象にした日本語の書き方教室



増地 ひとみ

准教授

共通教育機構

所属学会：日本語学会、早稲田大学国文学会、
早稲田大学日本語学会
日本リメディアル教育学会、初年次教育学会

ロボット・プログラミング教育が未来を拓く

研究内容

●日本のロボット・プログラミング教育の普及・啓蒙

- ・日本がAI後進国であることに鑑み、子供たちがロボット・プログラミングを学べる環境づくりを目指し、小・中・高・大学生を対象にした様々な教育プログラムを展開している。
- ・学校教育で求められているプログラミング教育の授業メソッドの提案、課外活動における社会課題解決を目的としたロボット開発の指導、普及・啓蒙を意図したロボット講座の開催など、その研究活動は多岐にわたる。また、指導する追手門学院大手前中・高等学校ロボットサイエンス部の活動は「TEAM EXPO 2025」共創チャレンジにも登録され「STI for SDGsアワード」（JST主催）を受賞するなど、クリエイティブな思考を発揮できる次世代人材を育成している。



新規性・優位性

- ▶日本のロボット教育の第一人者であり、日本のロボット・プログラミング教育の普及・啓蒙を目指した活動の功績が認められ、これまで、2度の文部科学大臣賞を受賞。また、追手門学院大手前中・高等学校のロボットサイエンス部の顧問として、世界規模のロボットコンテスト大会に8年連続出場し、2018 FIRST LEGO League 国際大会（米国）、2022 World Robot Olympiad 国際大会（ドイツ）では、チームを世界一に導いた。

応用・活用例

<ロボット開発でSDGsや環境問題などの社会課題を解決>

- STEAM教育を意図したロボット教育の授業カリキュラムの構築
- SDGsを解決に向けたロボット開発による未来提言（手話通訳ロボット等）
- 中高生が企画する課題解決を意図したロボット講座の展開
- 企業や行政と連携した追手門学院大学生による地域の小学生に対する教育貢献



福田 哲也

追手門学院 初等中等部
ロボット・プログラミング
教育研究推進室 室長

追手門学院大学
特任准教授

所属学会：日本STEM教育学会、教育システム情報学会

受賞学術賞：2007/4 文部科学省 文部科学大臣表彰
受賞科学技術賞（理解増進部門）